

吉田神道

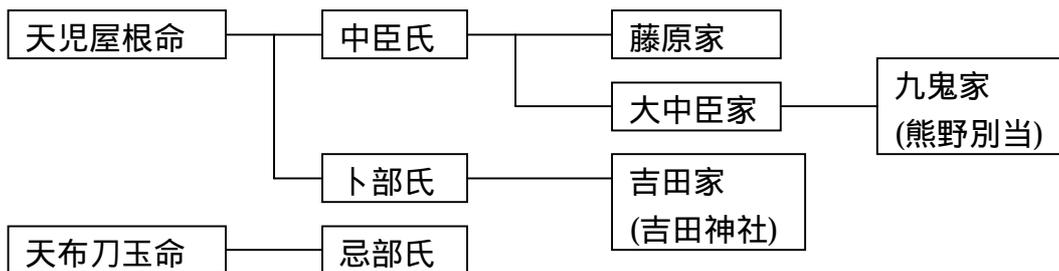
(1) 吉田兼俱のプロフィール

人物像：室町時代中期の人(1435～1511)で吉田神道の大成者。

最終冠位 従二位神祇権大副(吉田家では異例の出世)

家柄：神祇氏族といわれ、神祇を以って代々大和朝廷に仕えた家柄。

神祇氏族の系統



天岩屋戸神話

岩戸の前で祝詞を唱えたのが天児屋根命(あめのこやねのみこと)、天照大神が岩戸を少し開いたときに鏡を差し出したのが天児屋根命と天布刀玉命(あめのふとだまのみこと)。

神祇氏族としての役割：卜占(ぼくせん)による吉凶判断。

神祇氏族の順位：1位(中臣) 2位(忌部) 3位(卜部)

吉田神社：清和天皇貞観元年4月(西暦859年)中納言藤原山蔭卿(ふじはらやまかげきょう)が春日の四神を勧請(かんじょう)し平安京の鎮守神として吉田山に創建された神社。



齋場所 大元宮
御祭神：式内神 3,132 座
(神道の三十三間堂)

↓
神道宗家としての象徴



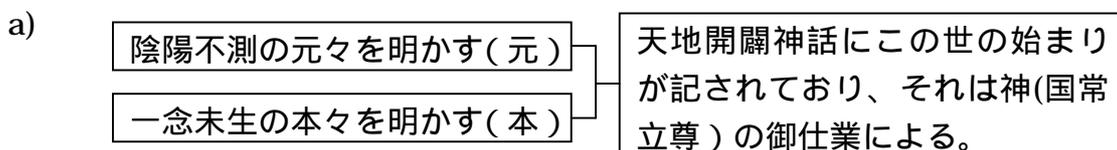
神龍社
御祭神：吉田兼俱
(明治13年創建)

(2) 元本宗源神道

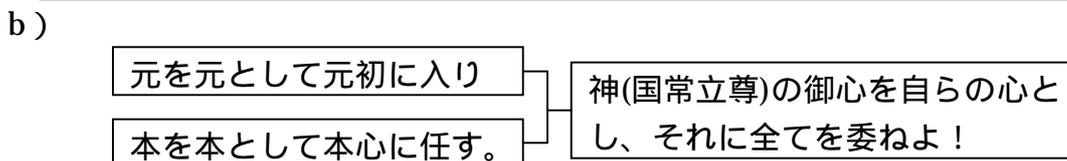
元本宗源神道とは

(唯一神道名法要集)
元とは陰陽不測の元々を明かす。本とは。故に頌に曰く、元を元として元初に入り、本を本として本心に任す。
宗とは一気未分の元神を明かす。故に万法純一の元初に帰す。是を宗という。源とは和光同塵の神化を明かす。ゆえに一切利物の本基を開く、是を源と云う。故に頌に曰く、宗とは万法、一に帰するなり。源とは諸縁、基を開くなり。吾国、開闢以来の唯一神道是なり。

語句の説明



(参考) 天地開闢 (日本書紀)
天地未だ割れず、陰陽分かれざりしとき、... (省略) ... 天地の中に一つの物生れり、状葦牙の如し。便ち神と化為る、国常立尊と号す。



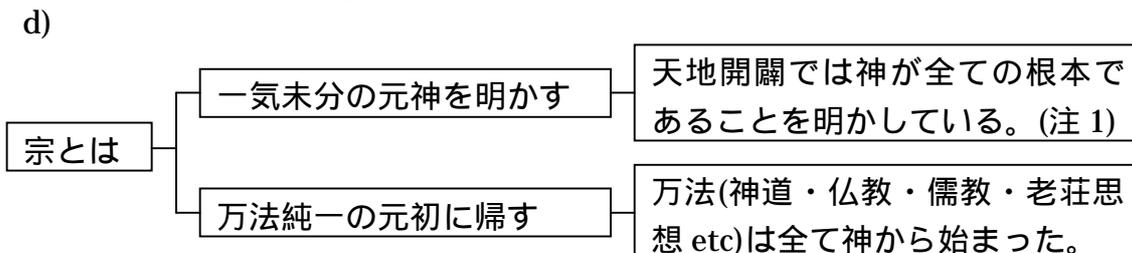
c)

元本とは(教義)

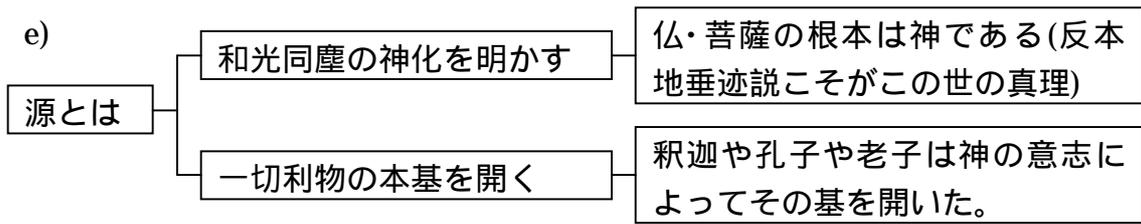
この世のことは全て神の御仕業であるから、人は神の御心を自らの心とし、それに全てを委ねて生きて行くことが大切であり、これが神道究極の極致である。



神道とは己の心の神を祭ること



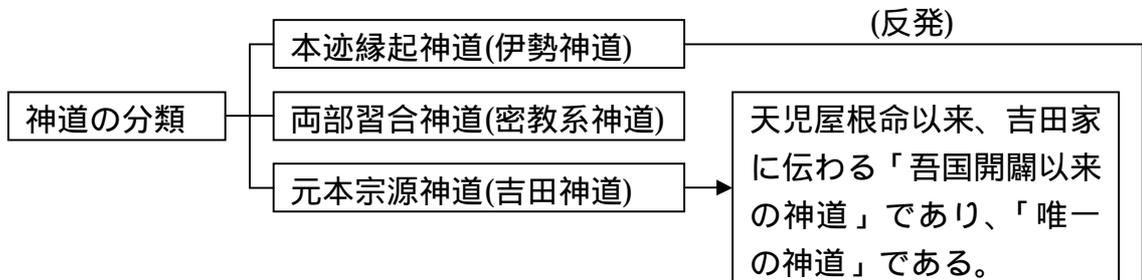
(注 1) 天地開闢の「天地」とは全世界のことを指している。



f)

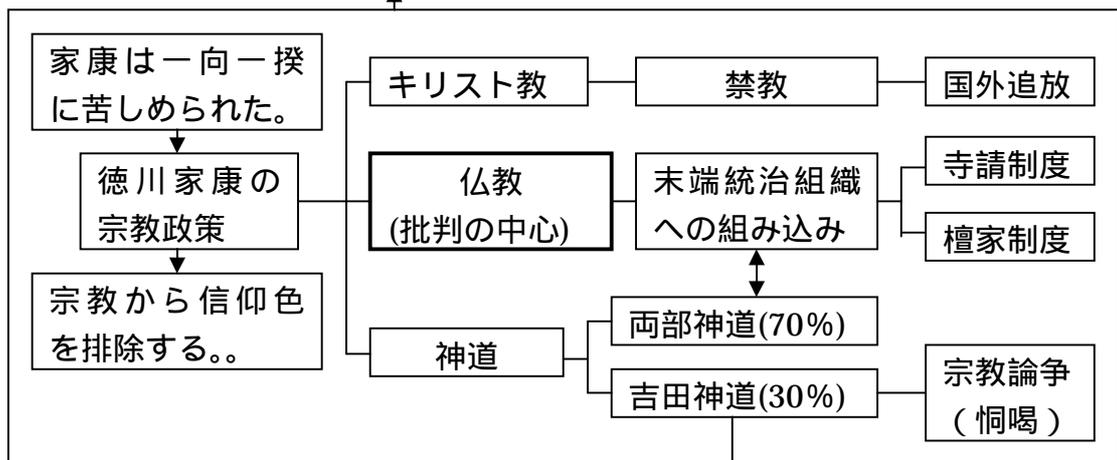
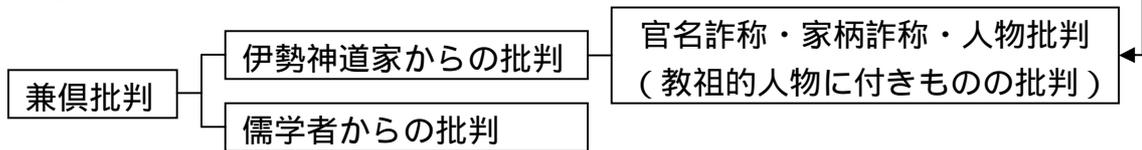
宗源とは(教相判釋:正当性の証明)
 神道も仏教(密教)も儒教も老荘思想もその内実はほとんど変わらない。これは神の意思が釈迦や孔子や老子に働いたことに他ならない。
 (神道が万法の根本で仏教(密教)も儒教も老荘思想はその枝葉)

g) 吾国、開闢以来の唯一神道是なり



(3) 林羅山の兼俱批判

1) 兼俱批判の構造



2) 林羅山の兼俱批判

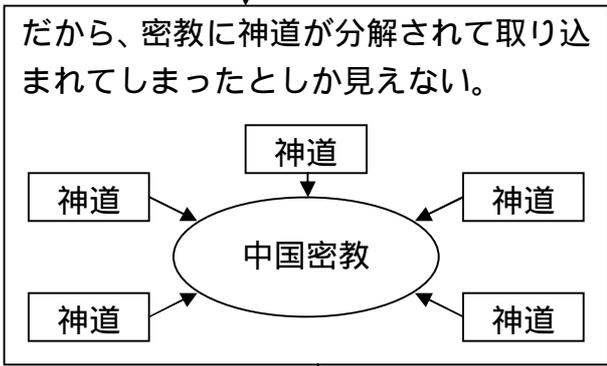
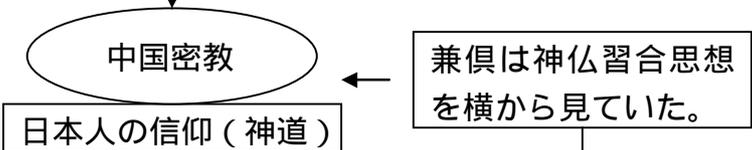
兼俱、何為者哉、若し神事の宗源を主らば、宜しく異端を排し仏僧を忌むべし我、名法要集、及び吉田家の家説を見るに、... (省略) ...亦彼の両部習合と云う者を剽掠して以って己が説となす

兼俱は自らの神道を「天兒屋根命以来、吉田家に伝わる神道」と述べているが、それは全くのデタラメで、天兒屋根命が仏教(密教)の影響を受けているはずがないではないか。つまり、兼俱のいう神道とは両部神道の一部を自説にすり替えて、吉田神道と称しているに過ぎない。

村岡典嗣（明治時代の宣長研究の第一人者）
兼俱は密教の一宗派を開こうとした。

これが定説になり、兼俱は完全に否定された存在になってしまった。

兼俱以降の神道学者・仏教学者・儒学者は
神仏習合思想を上からしか見ていない。



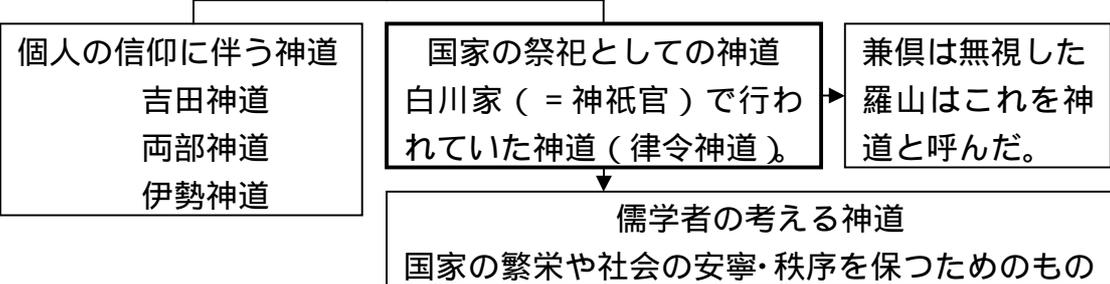
兼俱は神仏習合思想を横から見ていたために、「天兒屋根命以来、吉田家に伝わる神道」と日本密教がその本質部分で類似性が高いことに気がついた。

これが根本枝葉果実説の出発点で吉田神道の中核思想(吉田神道は仏教のまがいものではない)。

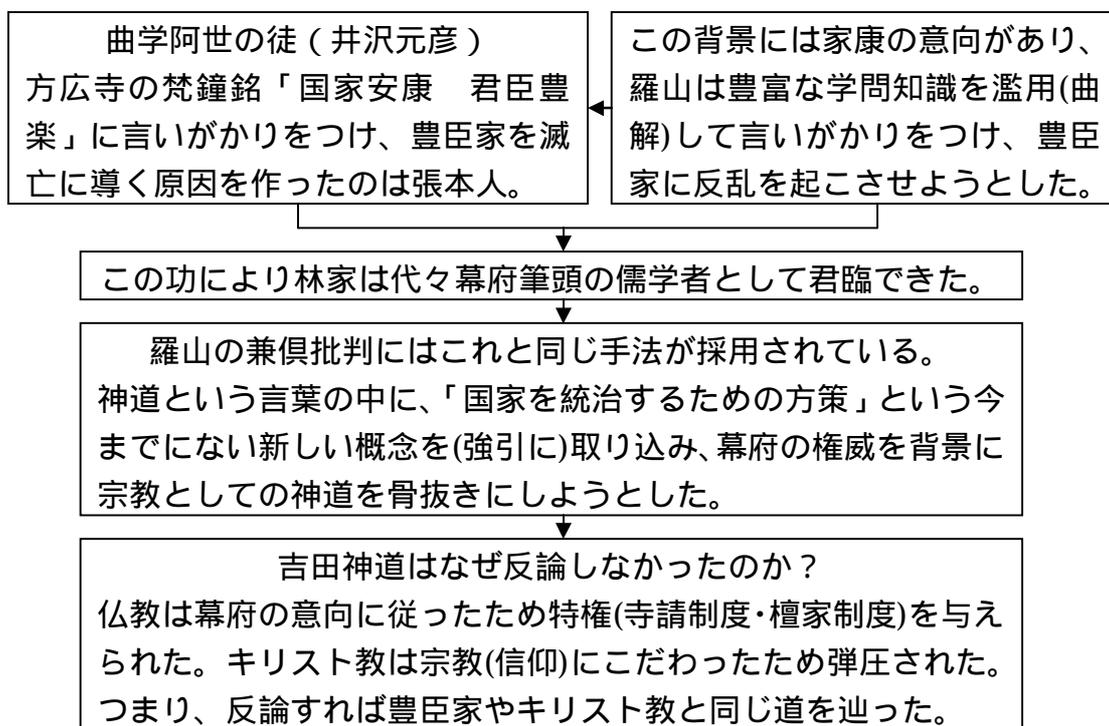
これが両部神道といわれる神道
(両部神道とは仏教)

現在の神道界はこの区別が付いていないため、信仰の実態と掛け離れた神道論を展開し、人々の支持が得られなくなっている。

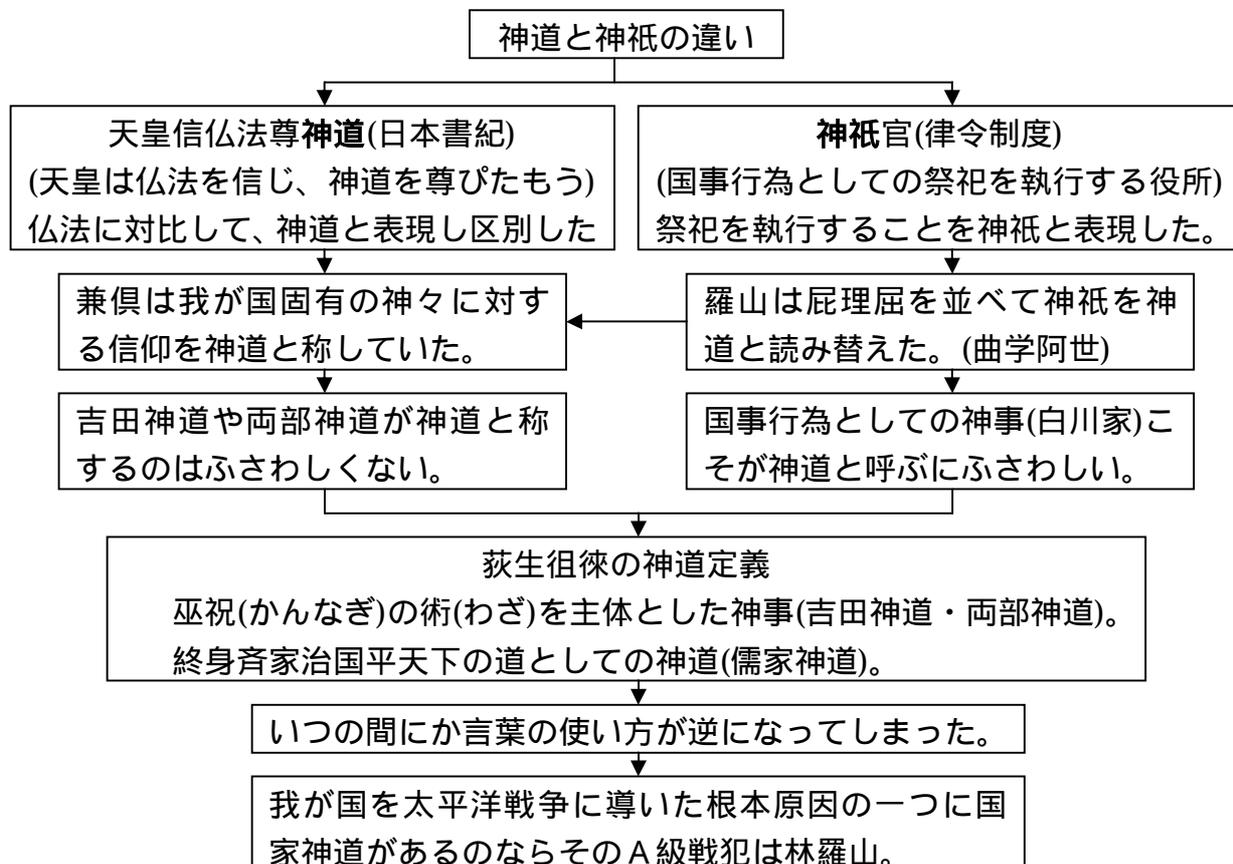
羅山のいう神道宗家にふさわしい神道とは



3) 林羅山のプロフィール



4) 羅山はどこを曲解したのか？

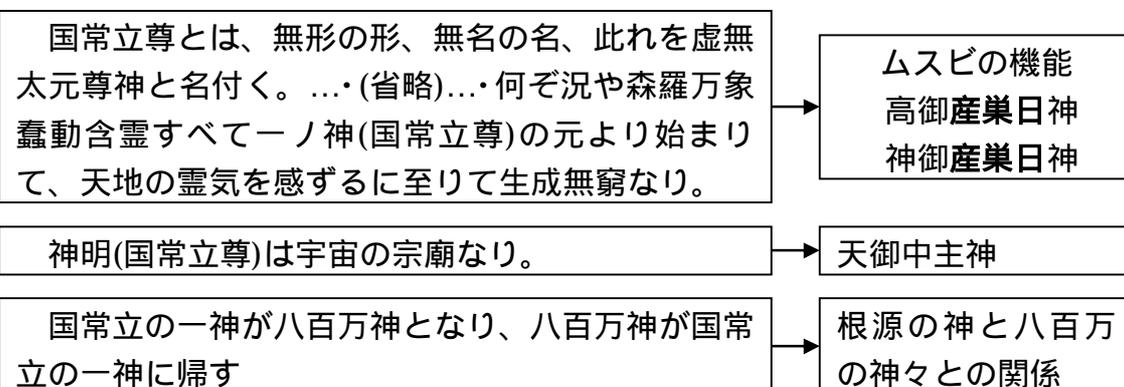


(4) 兼俱の思想

1) 神観念

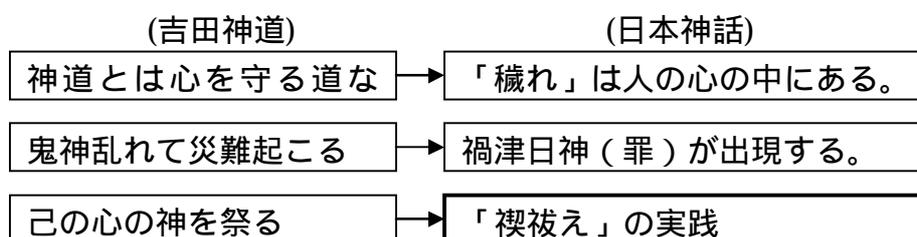
(吉田兼俱)

(日本神話)



2) 神道論

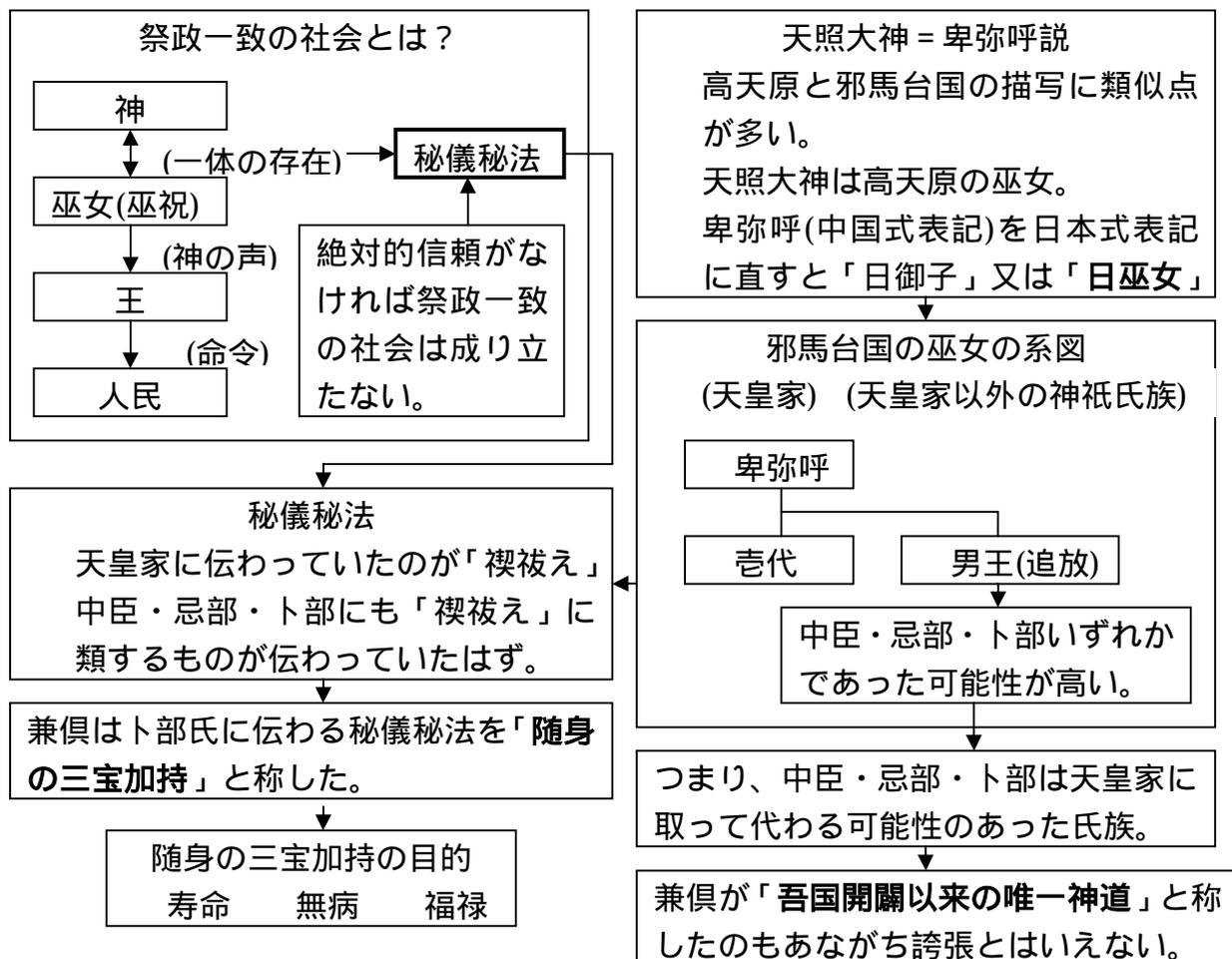
神道とは心を守る道なり、心動く時は魂魄乱れ、心静まる時は魂魄穏なり、此れを守る時は鬼神鎮なり、是を守らざる時は鬼神乱れて災難起こる、ただ己の心の神を祭るに過ぎたるはなし。



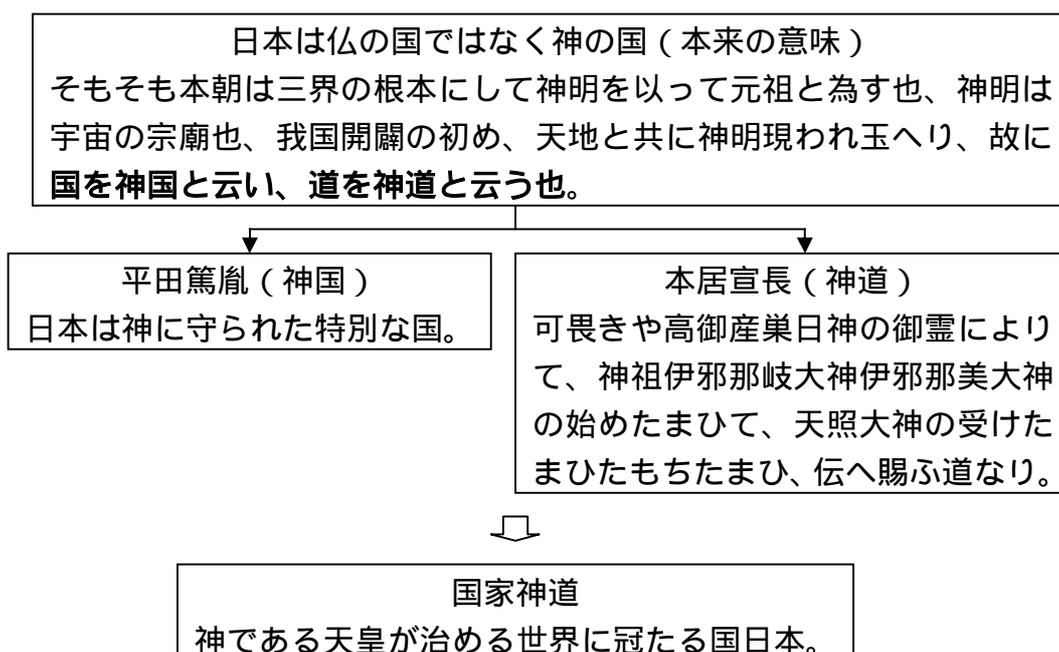
(解説)

「鬼神乱れて災難起こる」とは「禍津日神(罪)の出現」をさしており、その原因である「穢れ」は人の心の中に存在する(神道とは心を守る道なり)それゆえ自らの心が神の御心と一体になることによって(己の心の神を祭るに過ぎたるはなし)、「禍津日神の出現」を阻止することが出来る。

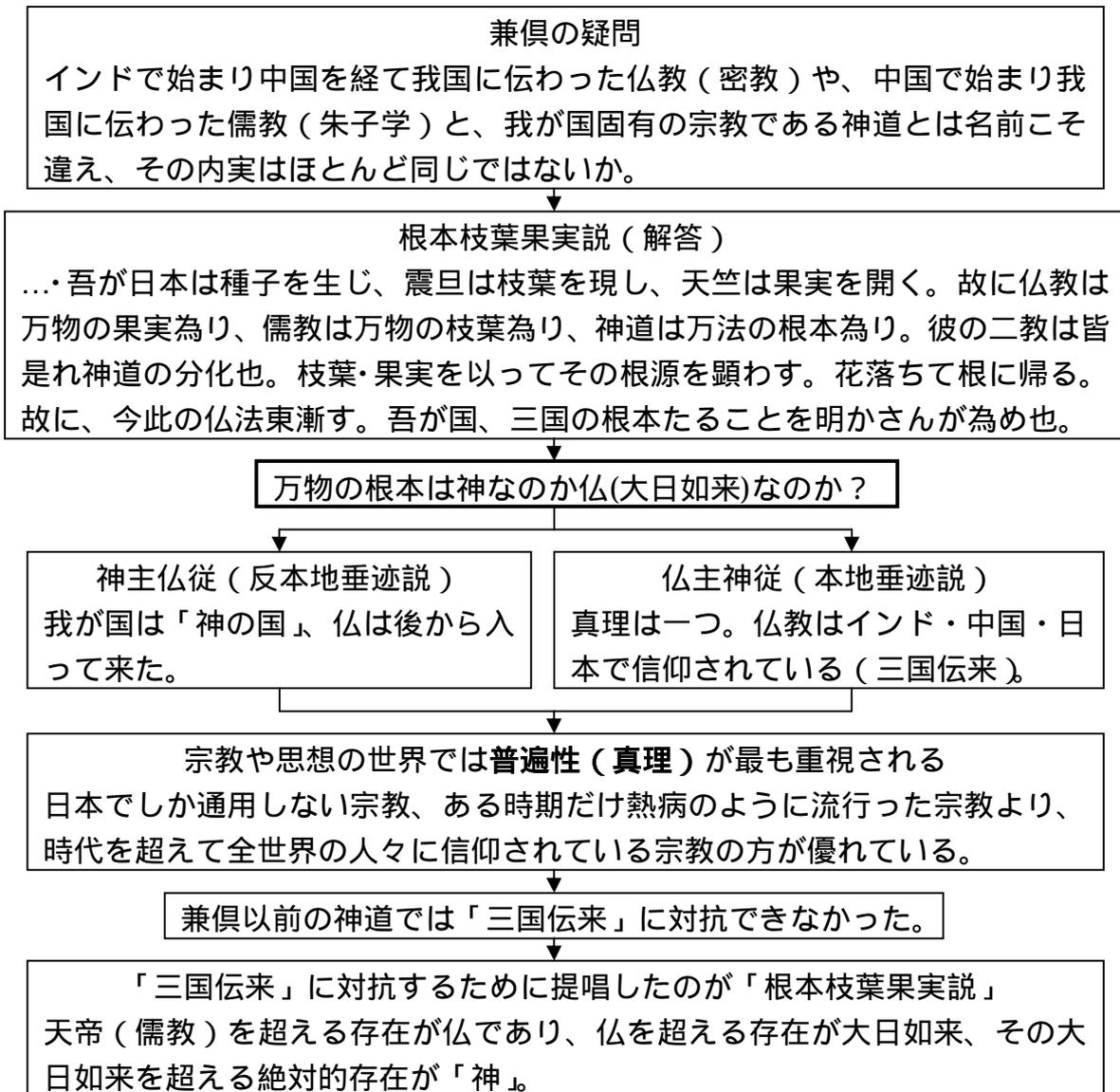
3) 随身の三宝加持



4) 神国日本

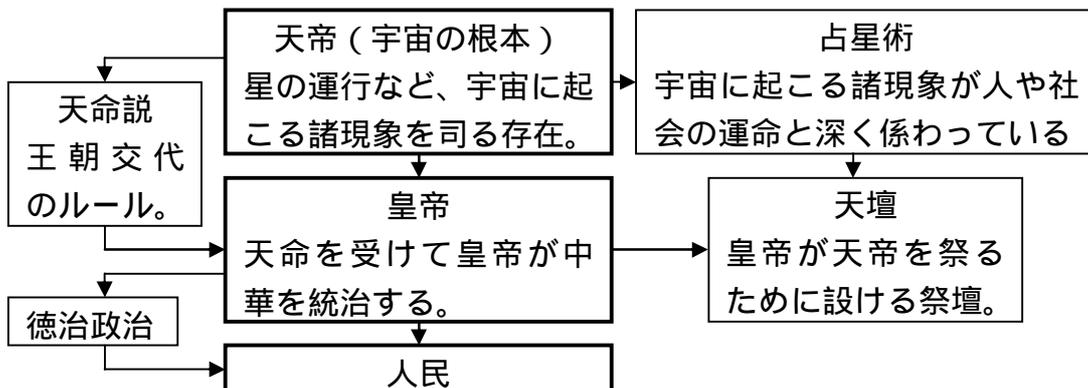


5) 根本枝葉果実説

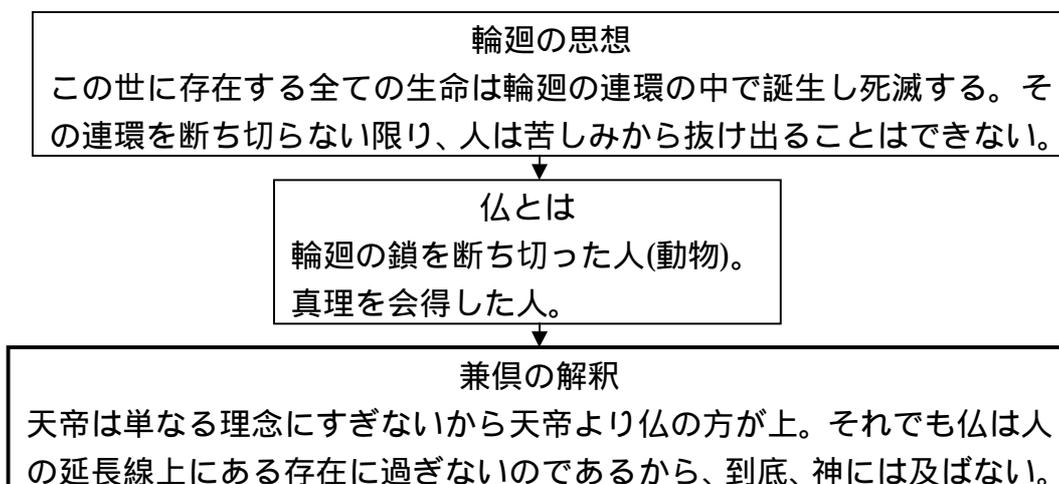


儒教社会の基本構造

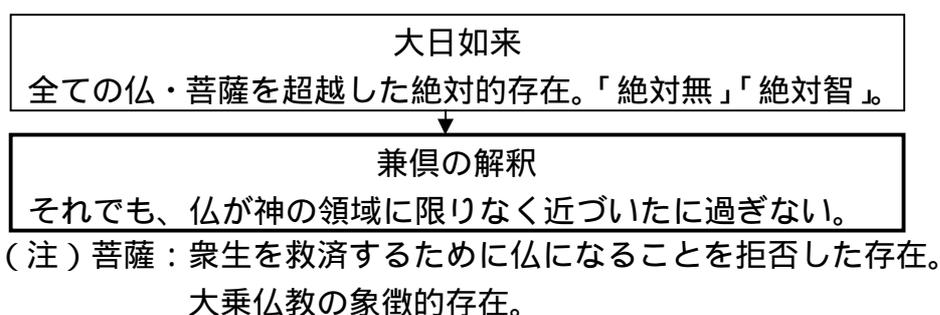
（天帝とは儒教社会を構成する根本理念）



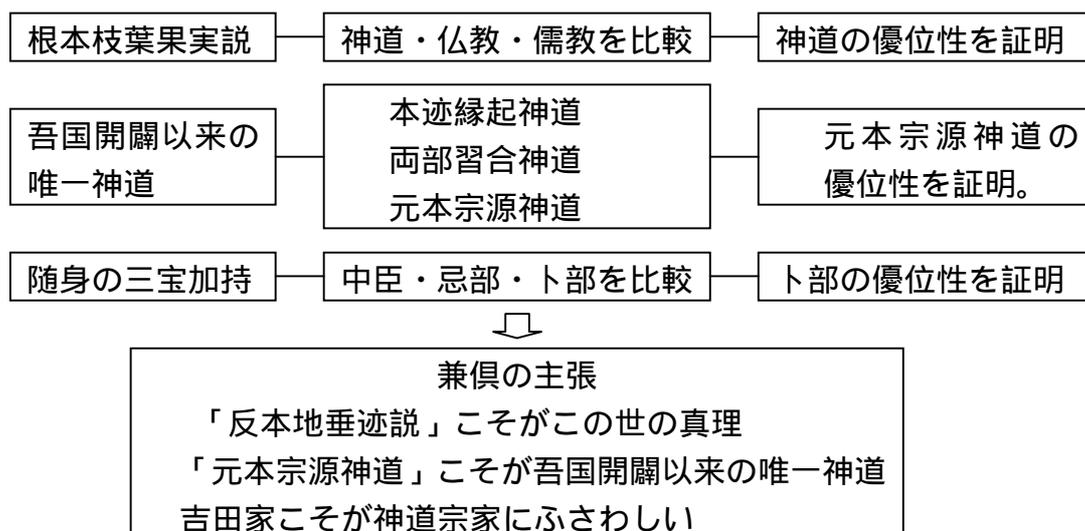
釈迦の根本思想



密教の根本思想

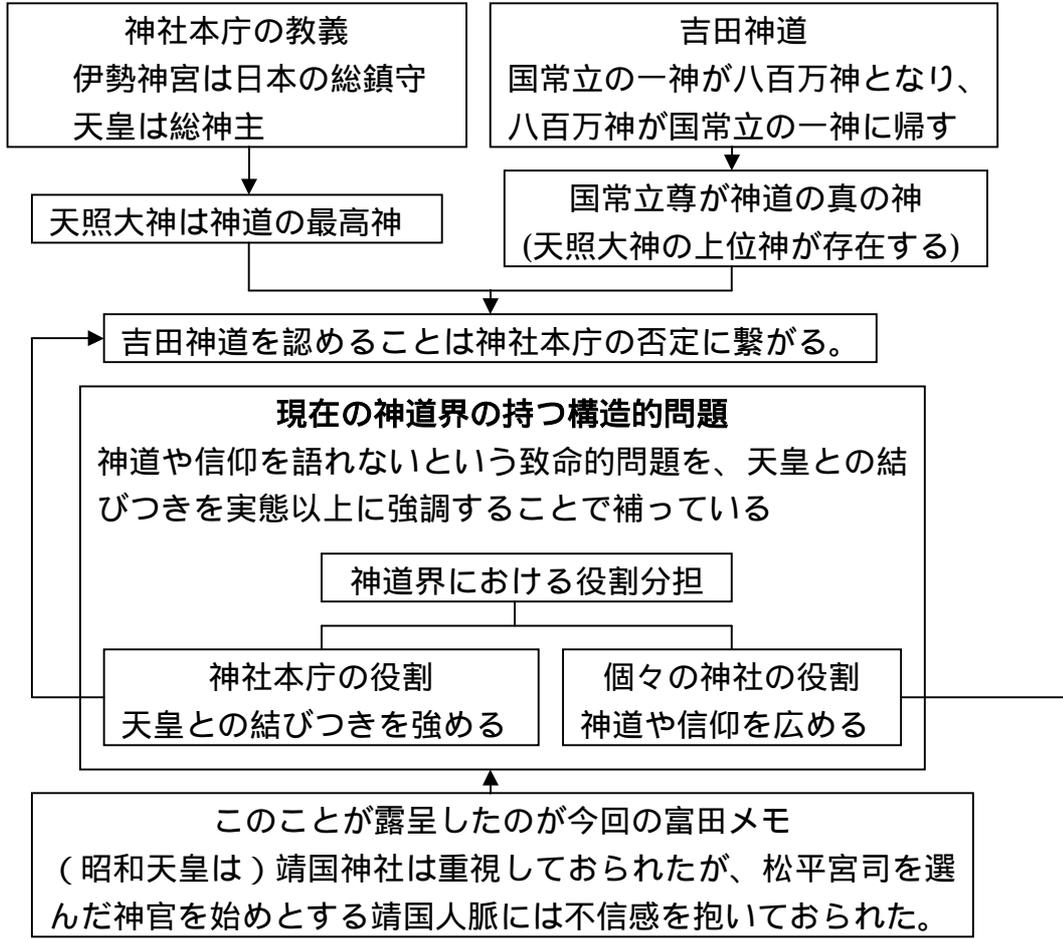


6) 論理思考の合理性

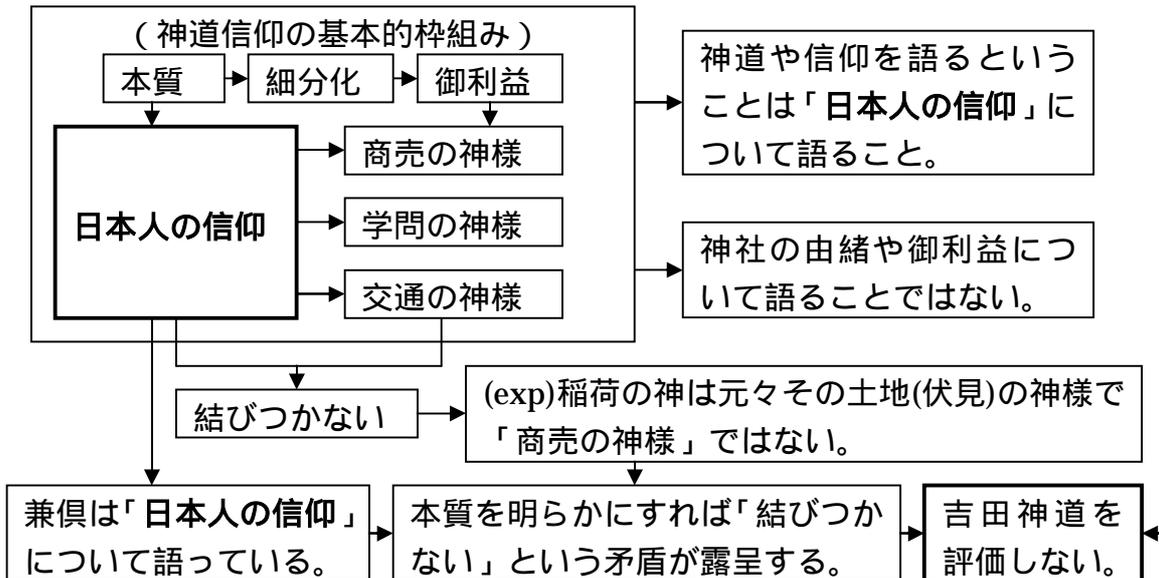


(5) 吉田神道は何故現在の神道界で評価されないのか

1) 構造的な問題



2) 教義上の問題



神道講座テキスト (第8回)

平成18年10月1日(日)

新熊野神社